



おいしさのみなもと

**FEED ONE**

2023年3月期 通期

決算説明会

2023年5月23日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード:2060



# 説明項目

- 2023年3月期 実績
- 2024年3月期 業績予想と重点課題



# 2023年3月期 実績

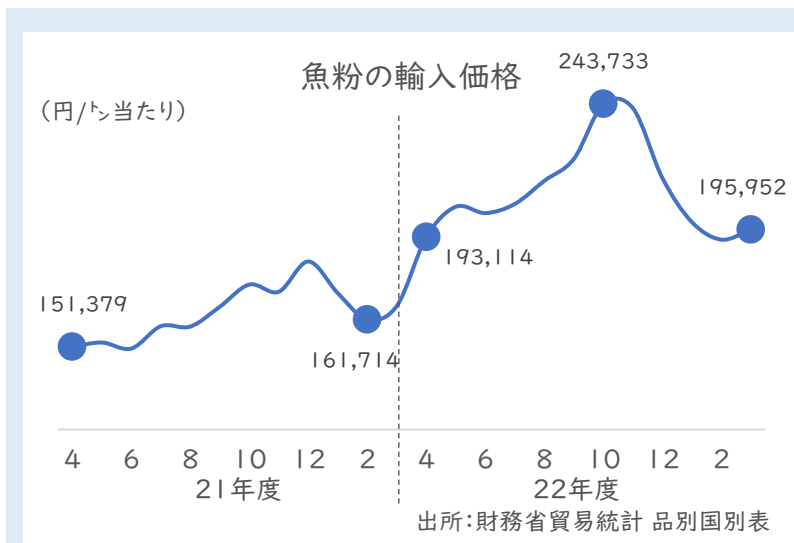
---

## 1. 輸入原料の価格動向

畜産飼料原料の約50%をとうもろこしが、水産飼料原料の約40%を魚粉が占める  
 急激な円安で価格が高騰、為替レートは10月のピーク以降、円高傾向も前年度水準を大きく上回る



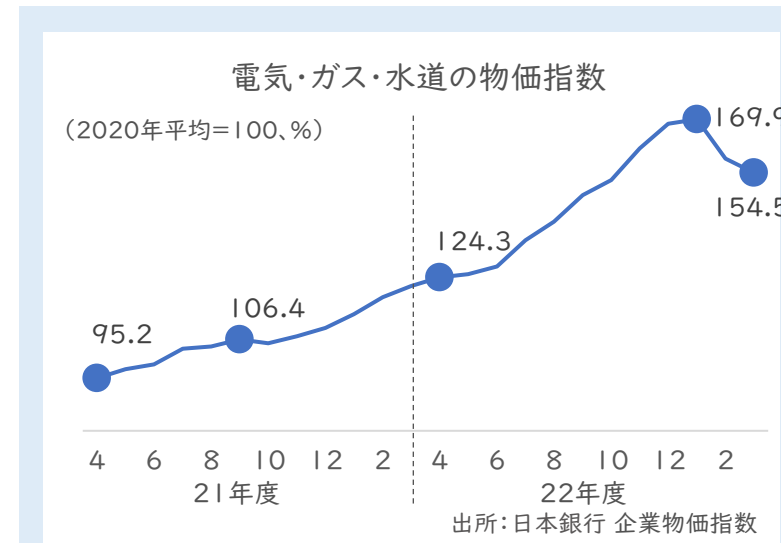
とうもろこし輸入価格: **前年度比 39.7% 上昇**  
 (円ベース)



魚粉輸入価格: **前年度比 29.6% 上昇**

## 2. エネルギーコストの動向

電気・ガスなどエネルギー物価指数は右肩上がりで上昇

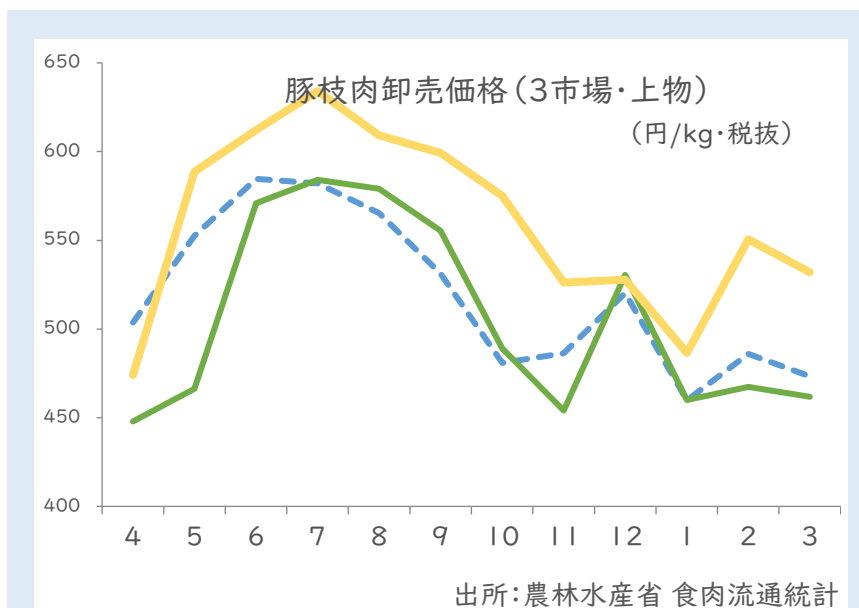


エネルギー指数: **前年度比 37.6% 上昇**  
 (電気・ガス・水道)

## 3. 畜産物相場の動向

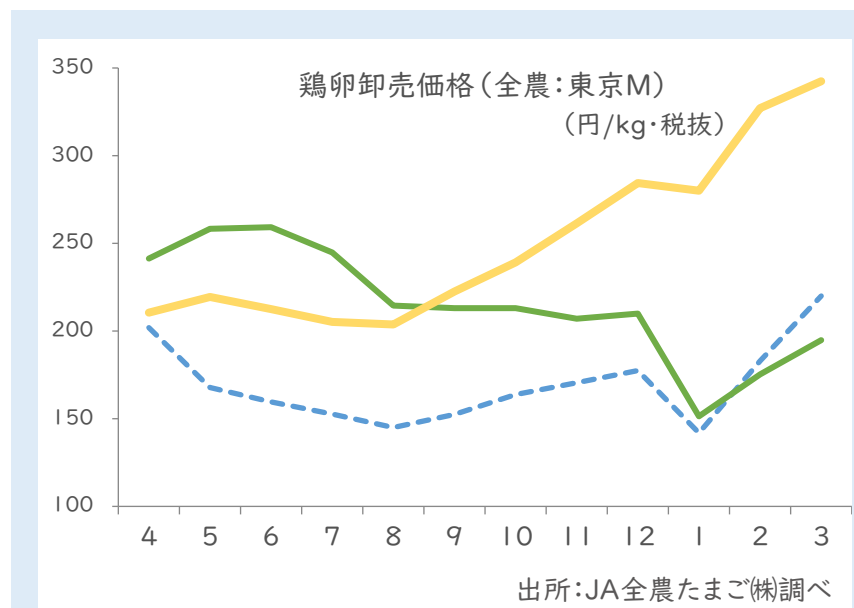
食品事業の取扱いは豚肉と鶏卵で約9割を占める

豚枝肉相場は前年度を上回り、鶏卵相場も第3四半期以降前年度を大きく上回る



輸入豚価格高騰に伴う国産への代替需要や国内出荷頭数減少の影響で過去10年平均を大きく上回る

**豚枝肉卸売価格:前年度比 10.7% 上昇**



上期は生産量の回復により前年実績を下回るも、下期以降、鳥インフルエンザの全国的な蔓延で前年度を大きく上回る

**鶏卵卸売価格:前年度比 16.5% 上昇**

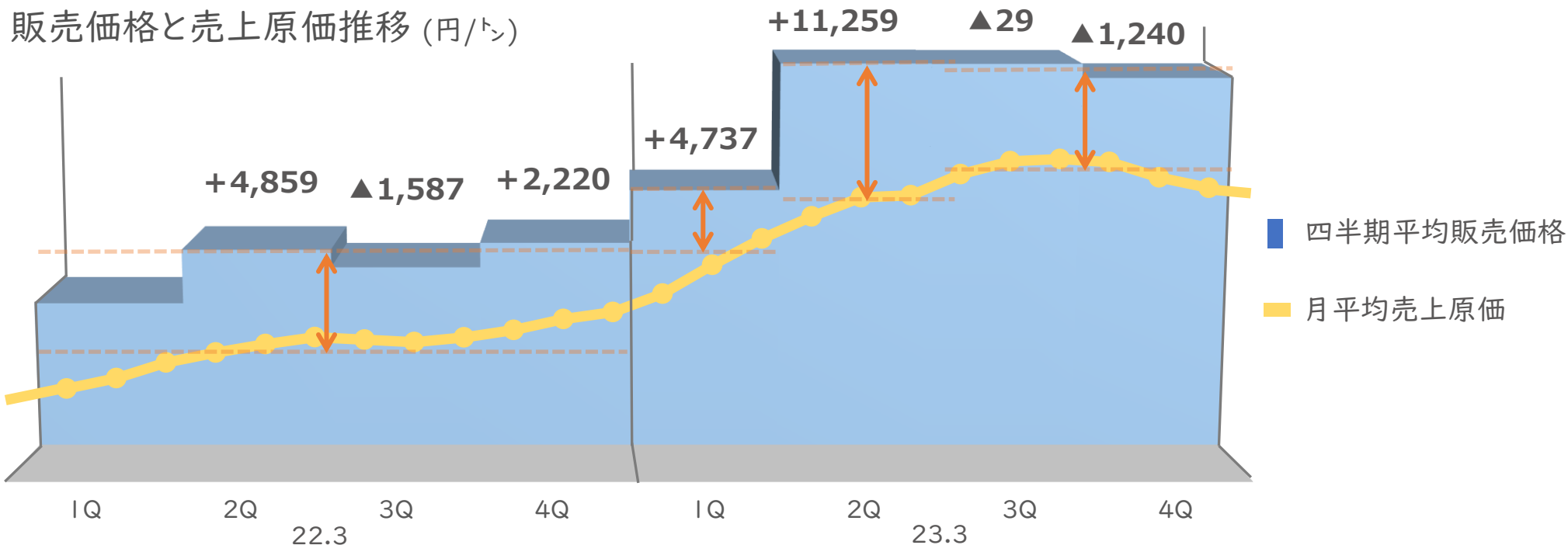
- 22年度
- 21年度
- - - 12-21年度平均

# 畜産飼料 販売価格と売上原価推移



FEED ONE

第1四半期は売上原価の上昇が販売価格改定を大きく上回り、売上総利益は減少  
 第2四半期は大幅な価格改定により増益、第3四半期以降も一定の利益を確保



- ▶ 売上原価における原材料費率は8割強、原材料の5割を輸入とうもろこしが占める
- ▶ 販売価格は原材料相場・為替・海上運賃を踏まえて、四半期毎に改定を行う

# 2023年3月期 決算概要



FEED ONE

原材料やエネルギー価格の高騰により売上原価上昇も、販売価格改定等によりカバーし、売上総利益は横ばい、一方で販管費の増加が大きく利益を圧迫し、営業利益以下大幅減益

(百万円)

	2022.3期		2023.3期		
		構成比		構成比	前期比
売上高	243,202	100.0%	307,911	100.0%	+26.6%
売上原価	220,490	90.7%	285,218	92.6%	+29.4%
売上総利益	22,712	9.3%	22,693	7.4%	▲0.1%
販管費	18,418	7.6%	21,270	6.9%	+15.5%
営業利益	4,293	1.8%	1,422	0.5%	▲66.9%
経常利益	5,067	2.1%	1,711	0.6%	▲66.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,659	1.5%	1,030	0.3%	▲71.8%

# 四半期ベース業績推移

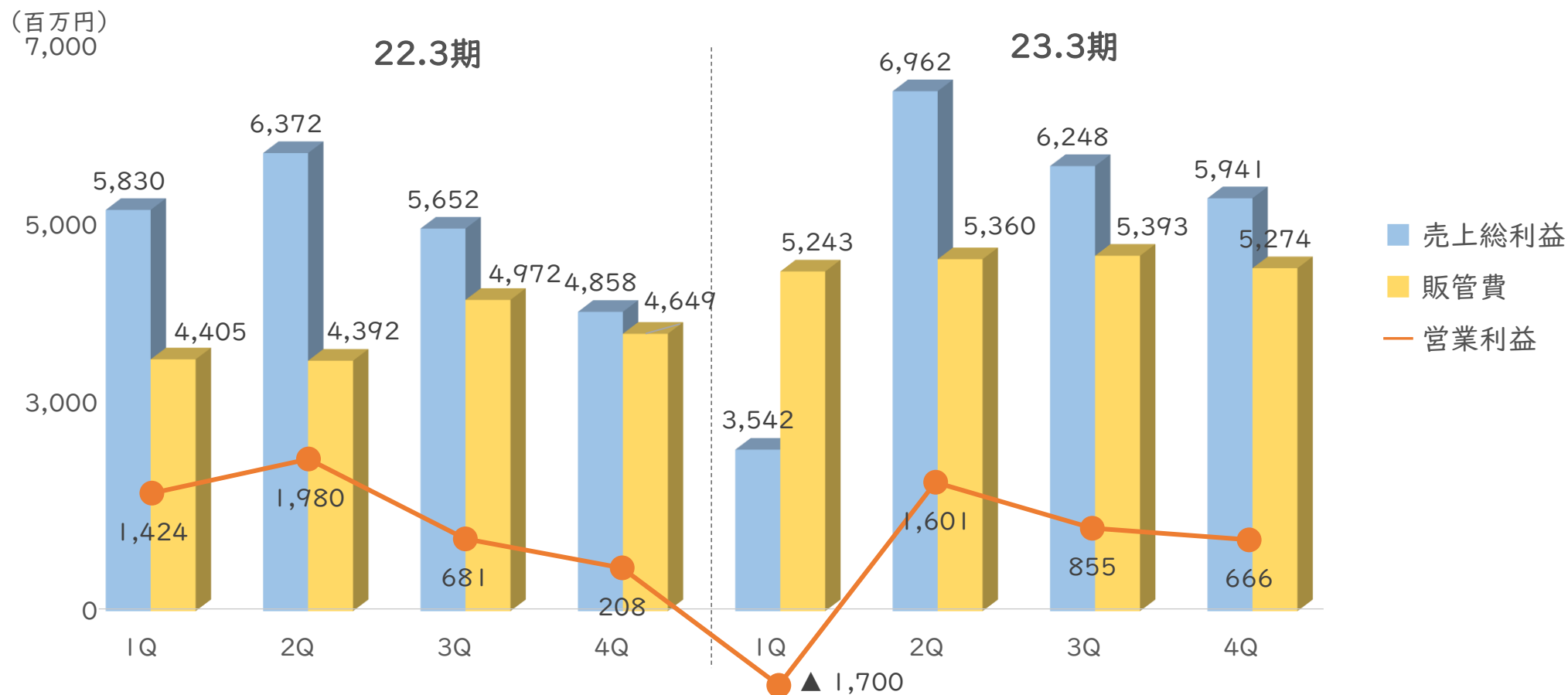


FEED ONE

第1四半期 売上総利益が大きく減少、統合後初の四半期での営業損失を計上

第2四半期 売上総利益が大きく増加、営業利益は大きく黒字転換

第3~4四半期 販管費はほぼ横ばいも、売上総利益が減少傾向で、営業利益も減少





# 販管費



FEED ONE

配合飼料価格安定制度の積立金が増額

その他の貸倒引当金繰入額・活動費等により増加

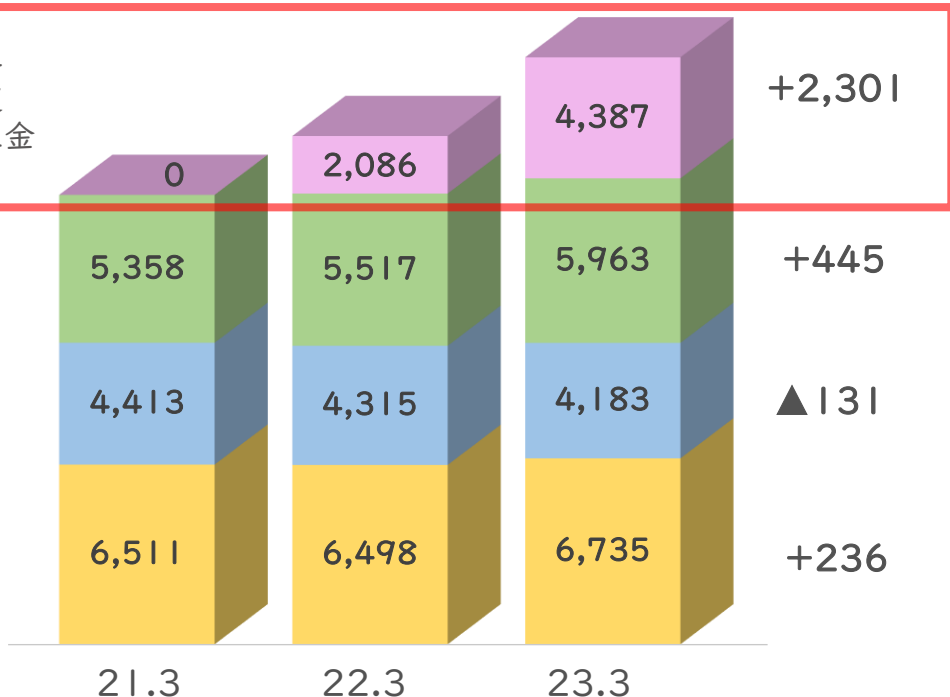
(百万円) 販管費合計 16,284 18,418 21,270 (前期差) +2,852

配合飼料  
価格安定  
制度積立金

その他

人件費

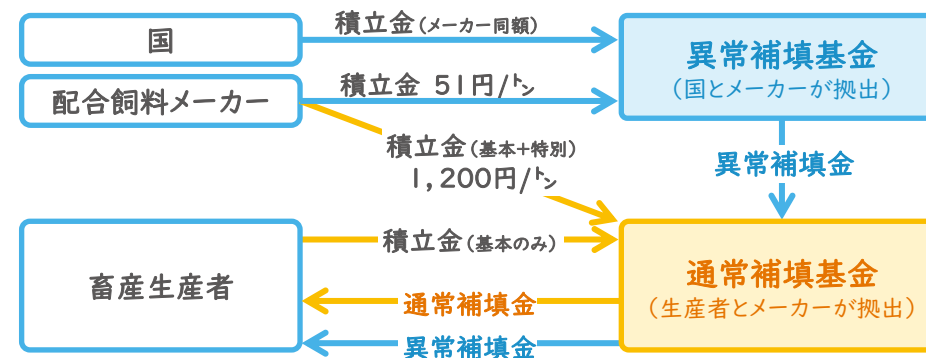
運賃



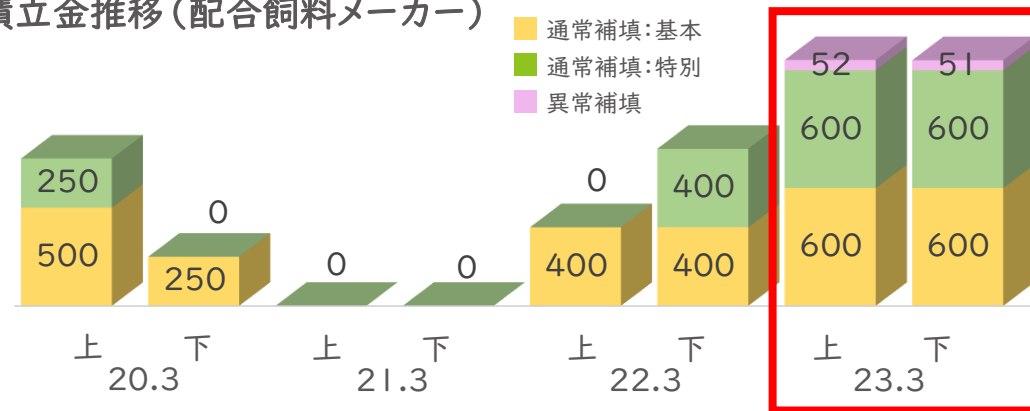
## 【参考】配合飼料価格安定制度

- ▶ 飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的
- ▶ 補填金発動により22.3期から積立金が再開、23.3期は単価増額、更に異常補填積立金が発生

制度の仕組み(例:23.3 下期)



積立金推移(配合飼料メーカー)



# 2023年3月期 セグメントの状況



FEED ONE

各事業とも販売数量増や販売価格改定で増収も、原価高騰や販管費増加の影響で大きく減益に

(百万円)

		2022.3期	2023.3期	
			増減額	前期比
飼料事業	売上高	203,398	264,073	+ 60,674 +29.8%
	セグメント利益	6,531	3,925	▲ 2,606 ▲39.9%
食品事業	売上高	37,366	41,334	+ 3,968 +10.6%
	セグメント利益	▲ 52	▲ 369	▲ 316 —
その他	売上高	2,437	2,503	+ 66 +2.7%
	セグメント利益	286	266	▲ 19 ▲6.8%

※セグメント利益:営業利益

販売数量	2022.3期	2023.3期		
		前期比	コメント	
畜産飼料	352.1万ト	358.6万ト	+ 1.8%	採卵鶏用+2%、ブロイラー用+4%、豚用+1%、牛用+1%
水産飼料	9.2万ト	10.0万ト	+ 8.1%	海水魚用+10%、淡水魚用▲5%

# 主要事業 四半期ベース業績推移



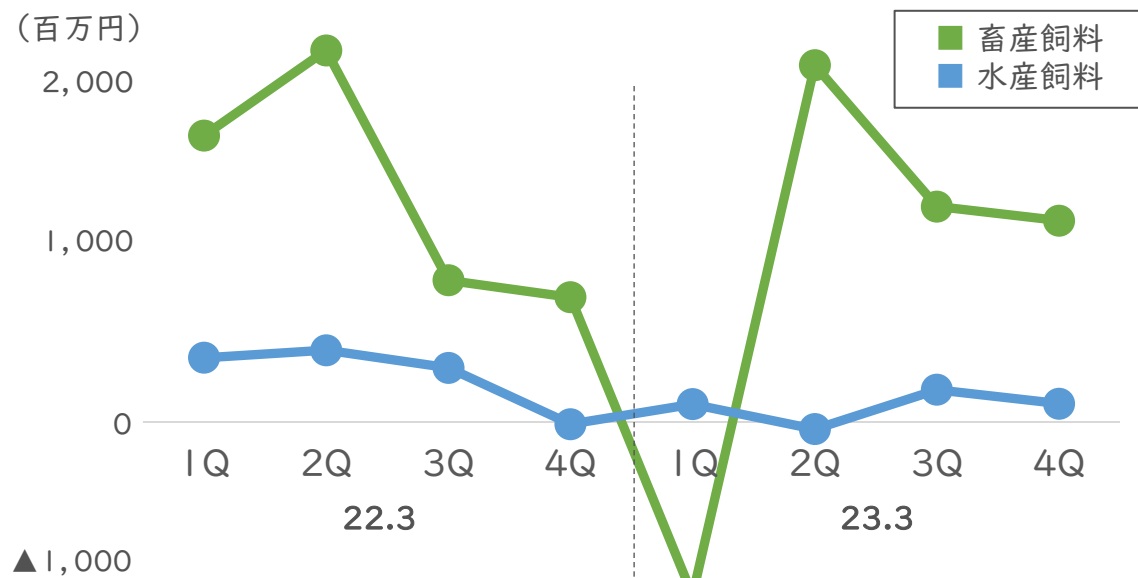
FEED ONE

**畜産飼料**: 第1四半期は原材料価格高騰により利益減少、第2四半期は販売価格改定により利益改善、第3四半期以降は価格転嫁が進まず利益減少も、飼料米等の有利原料使用による原材料コストの低減等により一定の利益は確保

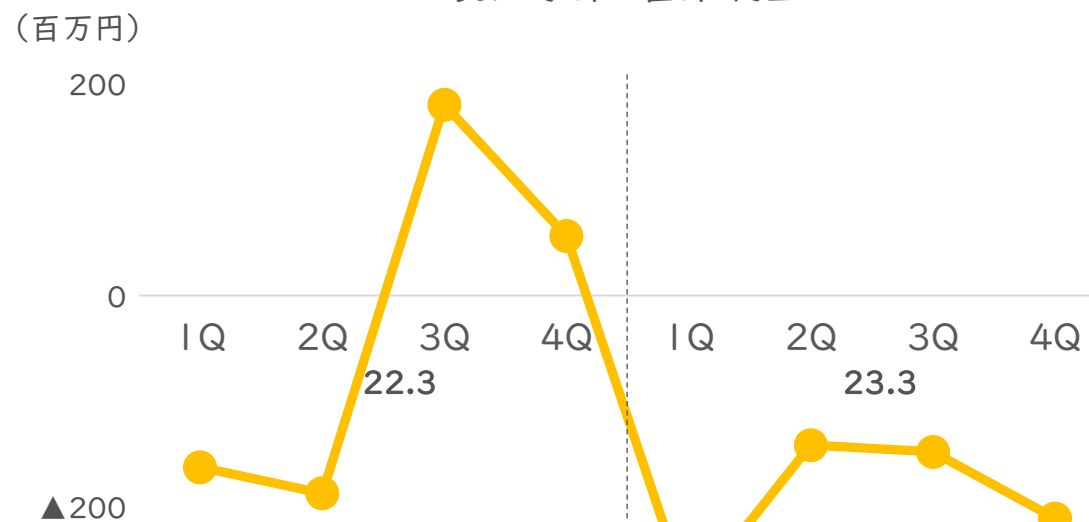
**水産飼料**: 原材料高騰により第3四半期に大幅な価格改定を実行するも、想定以上の原材料高騰が続き利益圧迫

**食品事業**: 上期は豚枝肉相場高騰、下期は鶏卵相場高騰により仕入価格上昇も、量販店等販売先への価格見直しが遅れ、大幅減益

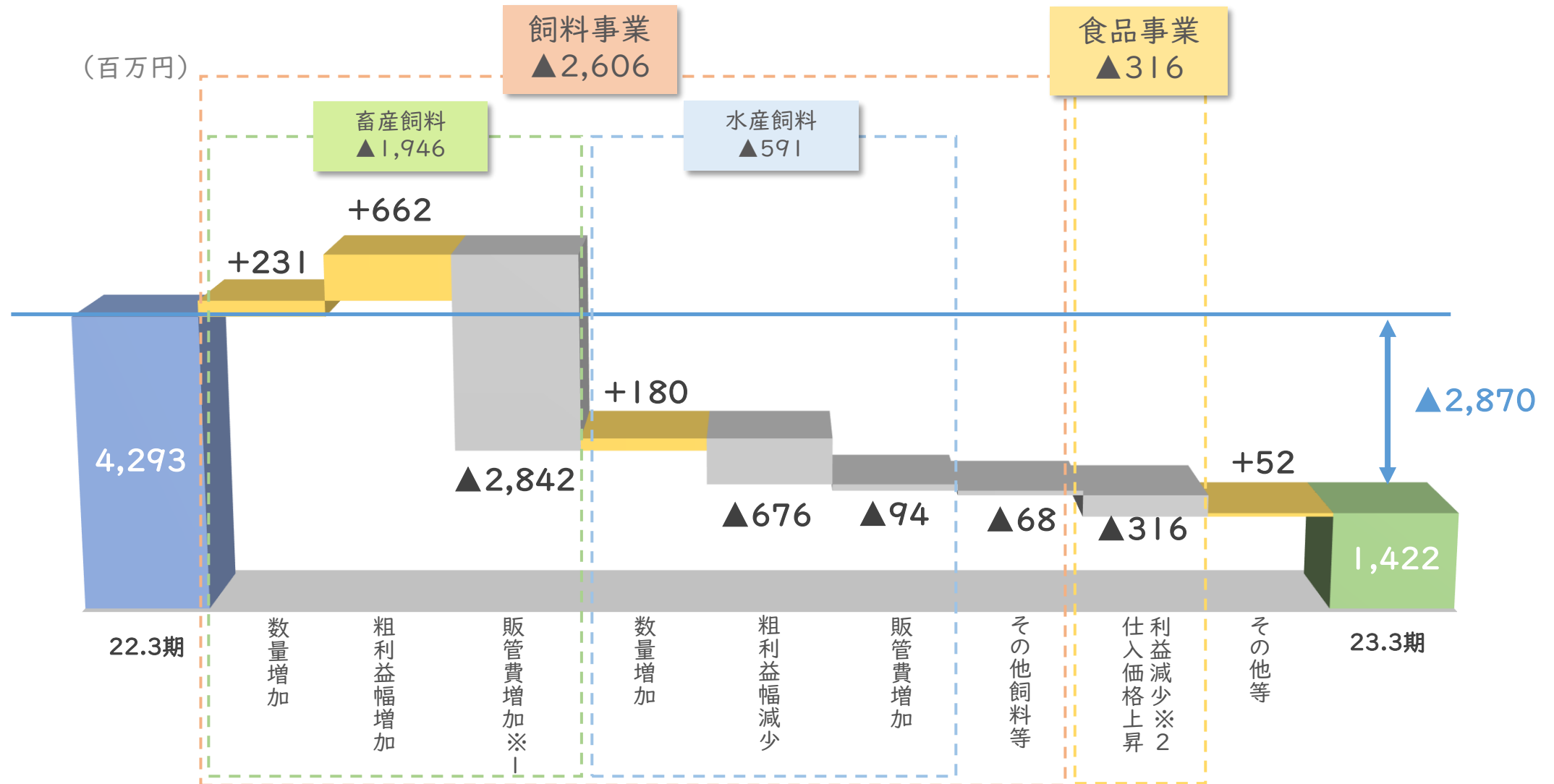
飼料事業 営業利益



食品事業 営業利益



# 営業利益 増減要因



※1 配合飼料価格安定制度の積立金増加▲2,296百万円

※2 水産物コロナ対策補助事業縮小により営業外収益の補助金収入▲233、実質食品事業は▲549

# 2023年3月期 連結財務状況

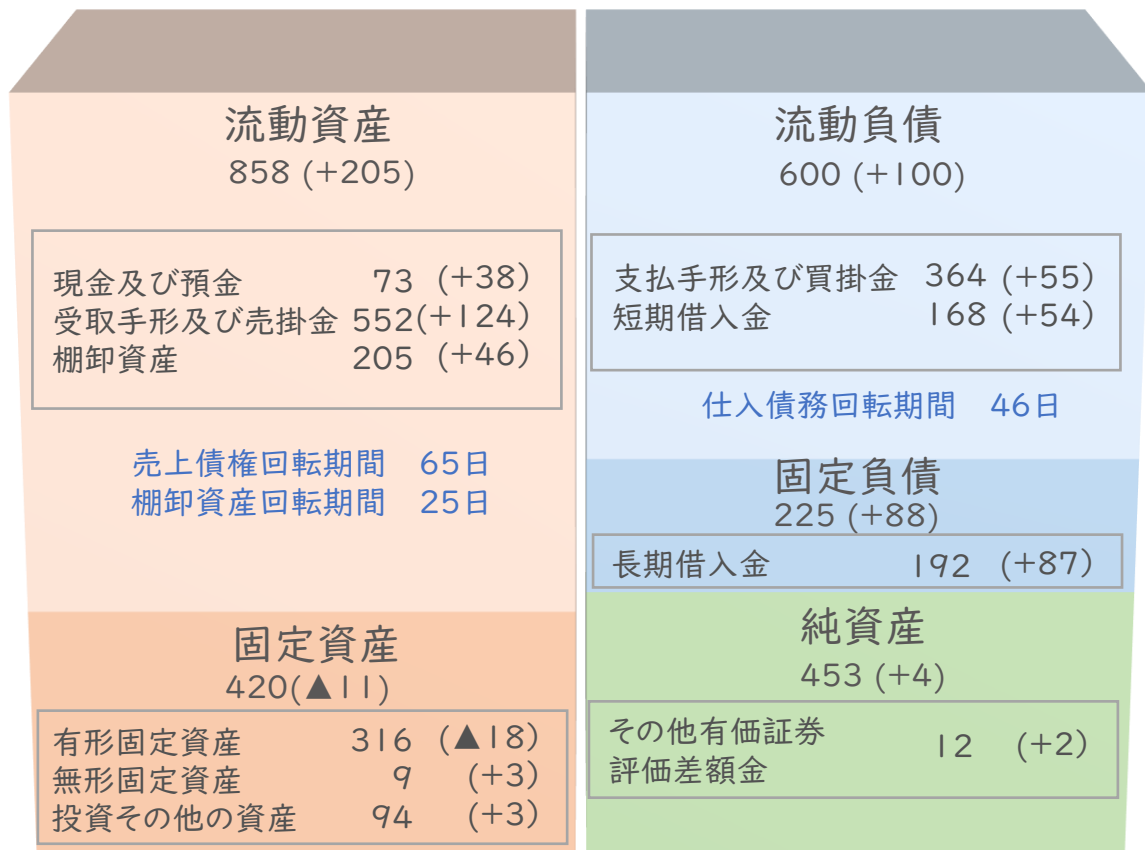


FEED ONE

増収による運転資金需要への対応で借入金は増加

連結貸借対照表 (22.3期末差)

(億円)

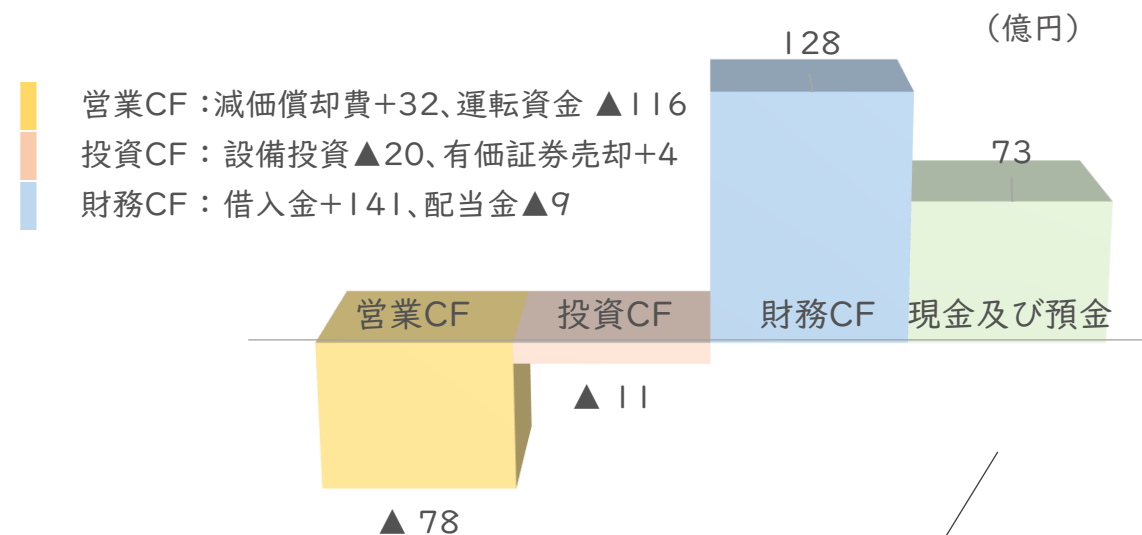


総資産 1,279 (+194)

CCC 44日 (+6日)

(キャッシュ・コンバージョン・サイクル)

連結キャッシュ・フロー計算書



コミットメントライン締結 (2022年8月29日)

現預金の積増し(+38)に加え、主要行とコミットメントラインの新規締結(100億円/期末実行残高なし)により、財務の安定性と健全性は向上



# 2024年3月期 業績予想と重点課題

---

# 2024年3月期 業績予想



FEED ONE

(百万円)

	2023.3期		2024.3期		
		構成比		構成比	前期比
売上高	307,911	100.0%	323,000	100.0%	+4.9%
売上原価	285,218	92.6%	296,800	91.9%	+4.1%
売上総利益	22,693	7.4%	26,200	8.1%	+15.5%
販管費	21,270	6.9%	22,700	7.0%	+6.7%
営業利益	1,422	0.5%	3,500	1.1%	+146.0%
経常利益	1,711	0.6%	3,500	1.1%	+104.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,030	0.3%	2,300	0.7%	+123.1%

## (事業環境)

為替レートは下期以降緩やかな円高も、原材料相場・エネルギーコストは高止まりし推移、通期では若干の上昇を想定

## (前提条件)

販売価格はエネルギーコストや原材料価格を踏まえた価格設定

配合飼料価格安定制度積立金1,420円/トンで設定(前年下期1,251円/トン)、前期より6億円ほど増加

# 2024年3月期 セグメント別予想



FEED ONE

各セグメントは増収予想

飼料事業は販売数量増加や高付加価値製品の拡販、価格改定により増益予想

食品事業は相場高騰分の販売先への価格条件見直しの促進により増益予想

(百万円)		2023.3期	2024.3期		
			増減額	前期比	
飼料事業	売上高	264,073	276,000	+11,927	+4.5%
	セグメント利益	3,925	5,400	+1,475	+37.6%
食品事業	売上高	41,334	44,000	+2,666	+6.4%
	セグメント利益	▲369	500	+869	—
その他	売上高	2,503	3,000	+497	+19.9%
	セグメント利益	266	300	+34	+12.8%

販売数量	2023.3期	2024.3期		
		前期比	コメント	
畜産飼料	358.6万ト	361.7万ト	+0.9%	採卵鶏用▲0%、ブロイラー用+2%、豚用+2%、牛用+0%
水産飼料	10.0万ト	10.3万ト	+2.9%	海水魚用+3%、淡水魚用▲1%



# 第3次中期経営計画の進捗 (2022.3期-2024.3期)



FEED ONE

23.3期大幅減益、24.4期は増益予想も、中計目標は未達に

23.3期実績

24.3期予想

24.3期中計

飼料の  
販売数量

3,686千トン 3,720千トン 3,780千トン

経常利益

1,711 3,500 6,200

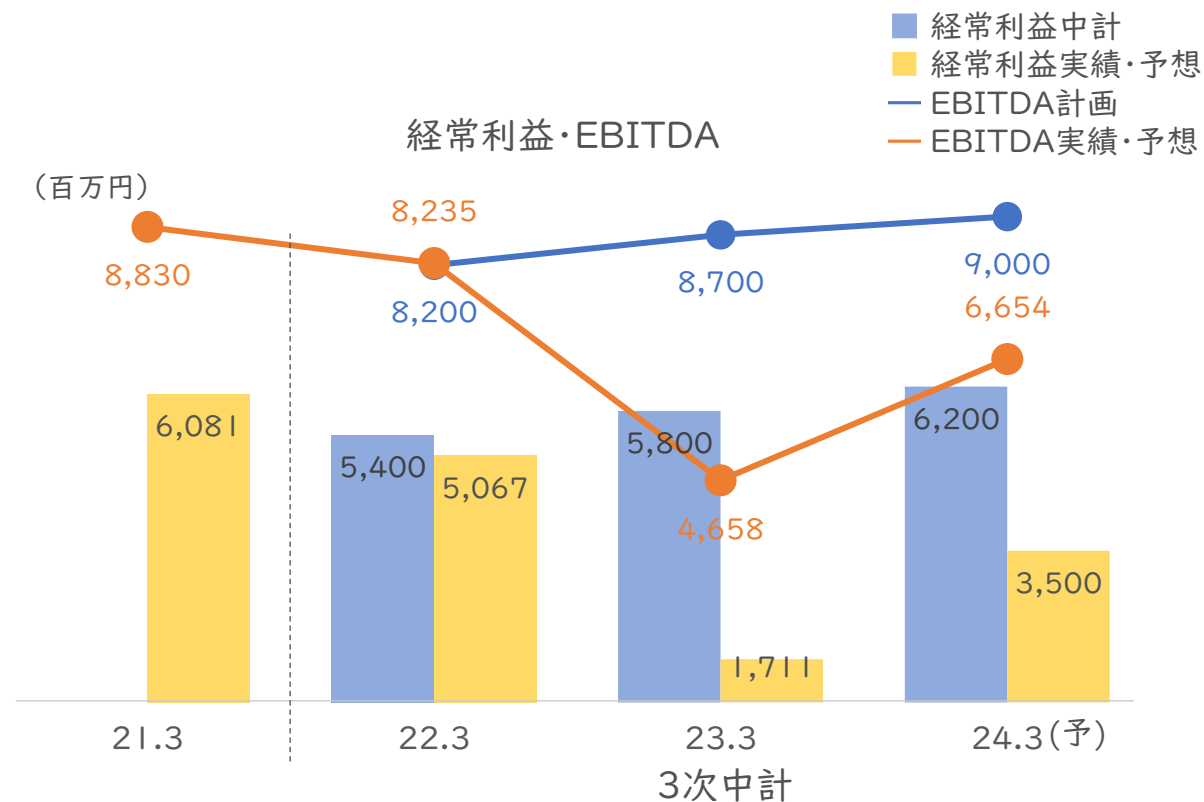
ROE

2.3% 5.4% 9.0%

(参考)

EBITDA

4,658 6,654 9,000

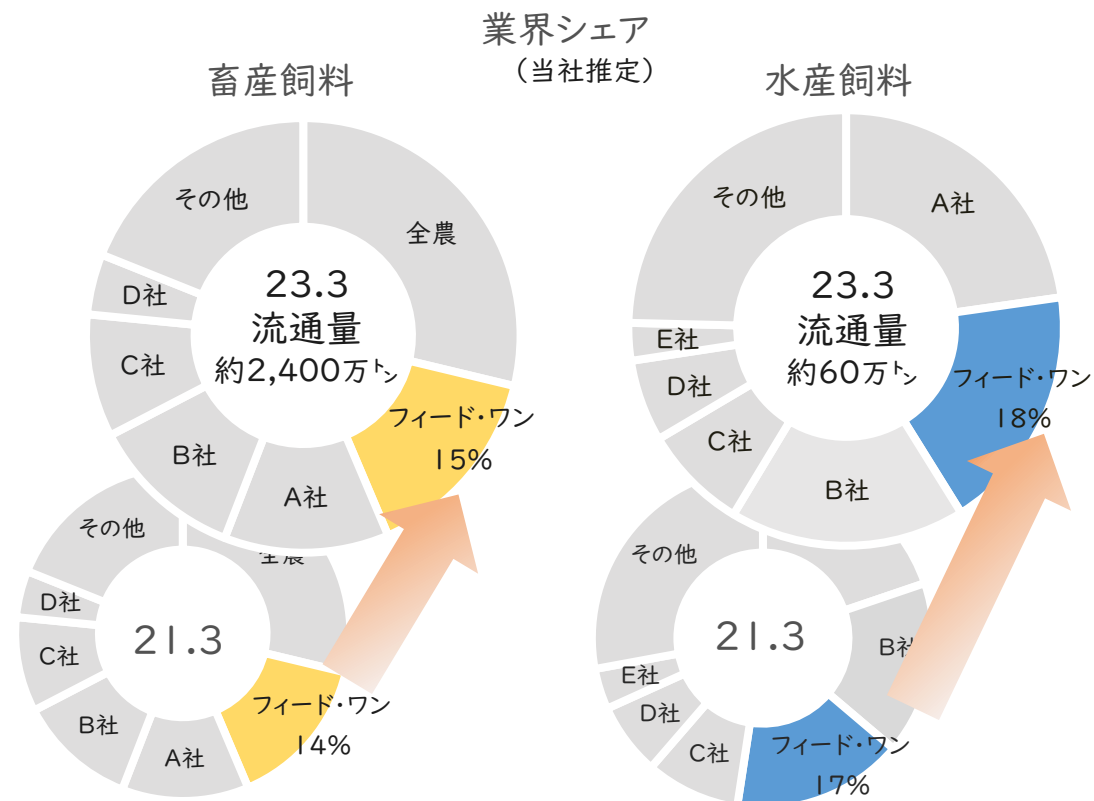
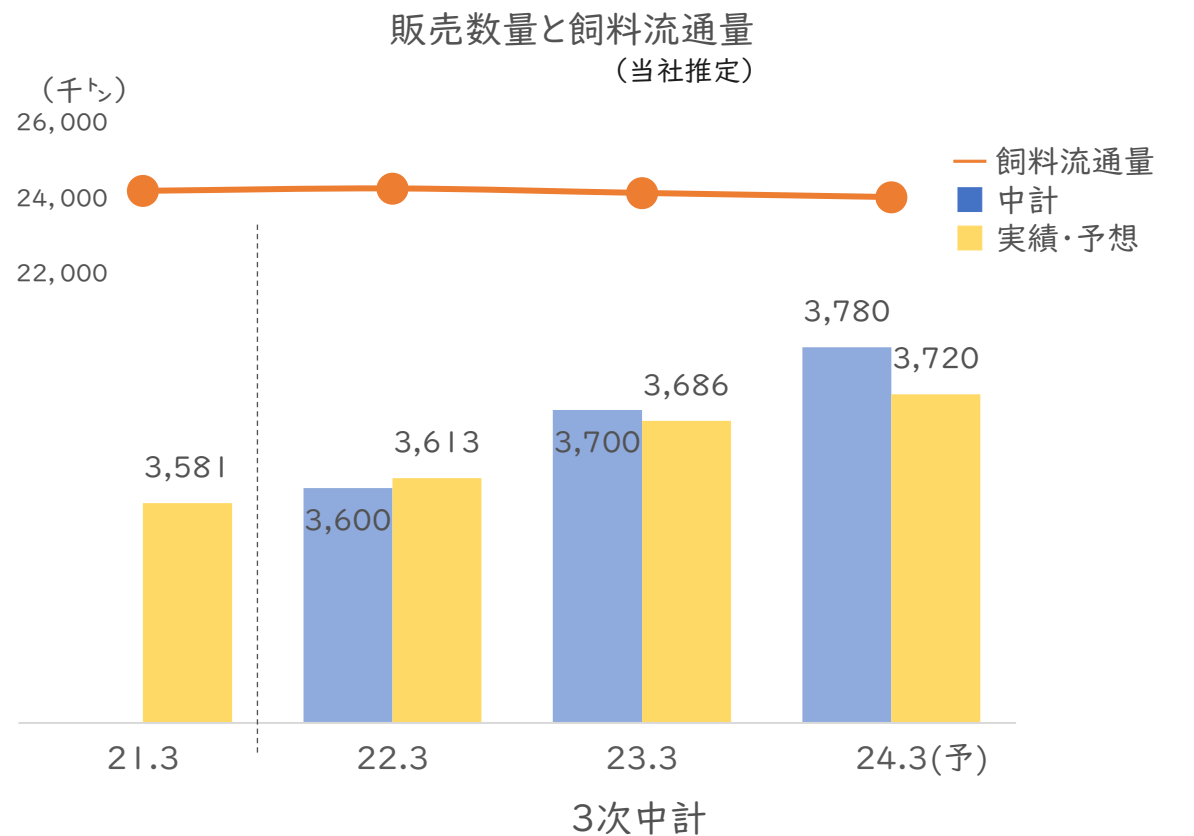


# 第3次中期経営計画の進捗 販売数量



FEED ONE

中計目標はわずかに未達ながら、全国流通量が微減のなか、販売数量は着実に拡大

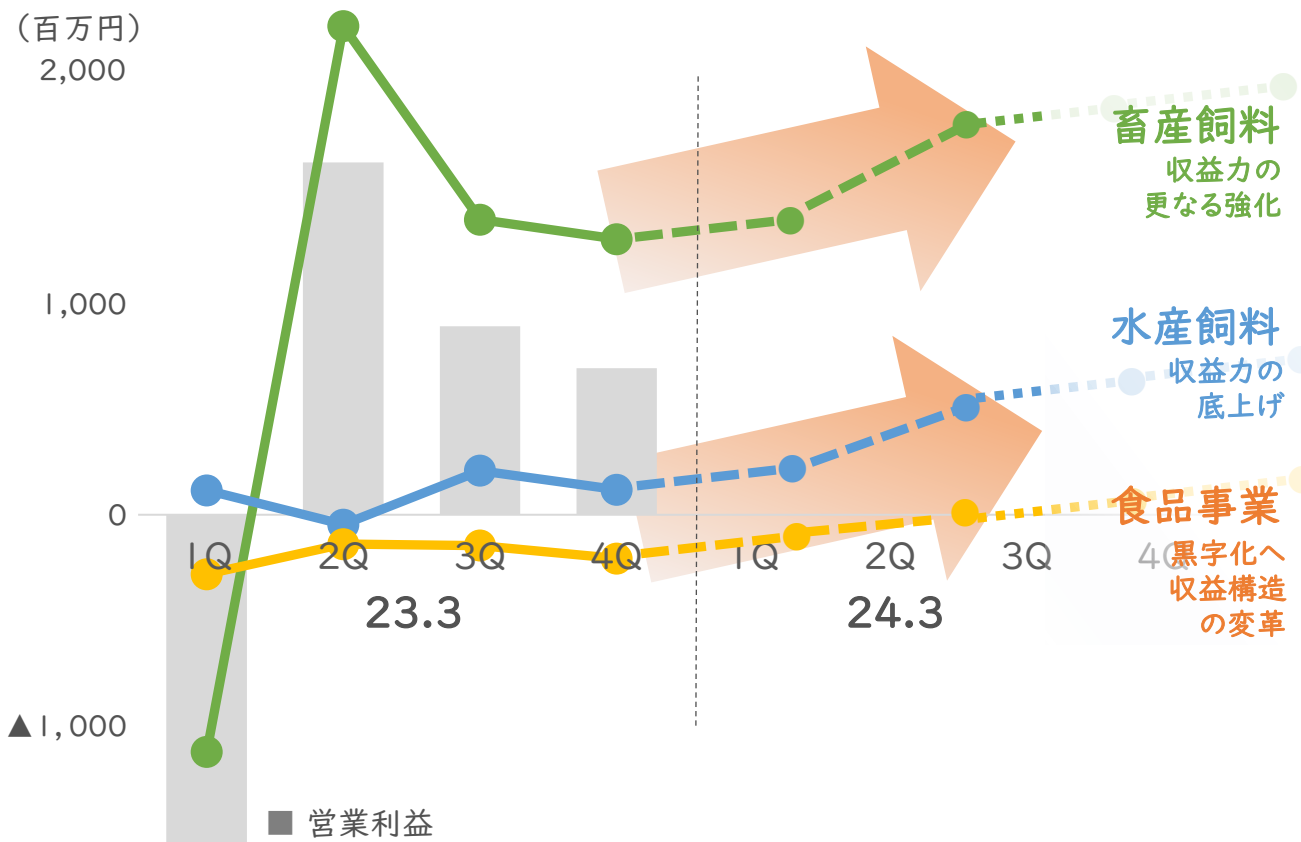


# 主要事業のコストアップへの対応と重点課題



FEED ONE

## 事業別 営業利益



## コストアップへの対応

- エネルギーコスト高騰分に対応した価格改定  
・2023年7月1日出荷分より
- 原材料高騰に対応した価格改定  
・2023年4月1日出荷分より
- 相場リスクの低い取引条件への変更  
・販売先への価格転嫁浸透

## 重点課題

- 設備増強やトータルコンサルティングサービスによる牛用飼料の拡販
- 時代や顧客ニーズに対応した高付加価値製品の開発・拡販
- 相場に左右されにくい  
コンシューマー商品の販売基盤構築

# 重点課題①

## 畜産飼料

### ■ 牛用飼料の拡販

(1) 牛用飼料の設備増設による製造体制の強化

① 北海道2拠点にフレックライン増設完了

フレック製品10%増産体制に

② 2023年1月子牛代用乳(粉ミルク) 設備新設

自社製造による採算改善と  
安定供給による拡販体制の強化に期待



(2) 顧客の経営を支える

トータルコンサルティング サービス

遺伝

酪農経営  
の3本柱

栄養

環境

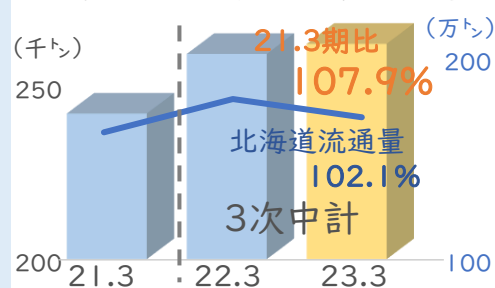
① ゲノム解析サービス

② 飼料給餌コンサルティング

③ 農場環境改善コンサルティング

製品とサービスを組み合わせた  
「コト売り」営業で顧客の課題を解決する

北海道地区乳牛用飼料販売数量



設備 × サービスにより  
牛用飼料の更なる数量拡大へ

## 水産飼料

### ■ 時代や顧客ニーズに対応した 高付加価値製品の開発・拡販

(1) サステナブル飼料の開発・拡販

- ・世界の水産資源は乱獲により枯渇の危機
- ・水産飼料の原材料の4割強が魚粉

→ 飼料の低魚粉化が必須

現在の低魚粉飼料ラインアップ

- ・鱒EP 星河(せいか)
- ・まだいDPフォースONE など

《次の段階》 無魚粉飼料の開発

フィールド試験は良好

→ 24.3期の上市めざす

(2) 稚魚用飼料「アンブローズ」「モジャコシリーズ」が好調

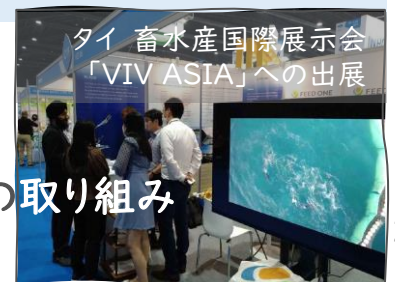
- ・稚魚の急激な成長を支える栄養設計が、  
水産種苗生産市場で高評価

販売数量 前期比 123.6%

一部にベトナムやマレーシアへの輸出も



国内の拡販に加えて、  
アジア圏への輸出拡大の取り組み



# 重点課題②

## 食品事業

- 相場に左右されにくい  
コンシューマー商品の販売基盤構築

### フィード・ワンフーズ(株)

豚を中心とした食肉加工・販売

消費者ニーズが高いチルド・冷凍  
商品形態で、夏場・冬場の需要向け  
新商品の開発

ホルモン商品や串加工商品など、  
20商品以上にラインアップ充実

年間を通し安定的な売り上げに貢献



消費地に生産拠点を構える  
メリットを生かし、ニーズに  
あった商品を短いリードタイ  
ムで供給

売れ筋商品の拡販・  
新商品の開発に注力!!



## 海外事業

- ジャパンクオリティを武器に経済成長著しい  
アジア圏へ積極的に展開

### KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED

ベトナム: 豚を中心とした畜産用配合飼料の製造・販売

23.3期は原材料高騰も豚の高利益製品拡販に  
注力し収益力強化

純利益 前期比 2.5億円増 最高益を実現

ベトナム初フレーク、代用乳(粉ミルク)設備が  
完成し、今後は牛用飼料拡販を強化



### 販売基盤拡大

北部地域へ供給拠点を拡大し拡販



# 重点課題③

## ESG経営の推進

### ■ 気候変動への対応

2022年4月19日 TCFD提言に賛同表明  
2022年6月20日 TCFDレポート開示

気候変動がもたらすリスクと機会が企業経営に与える財務的影響を評価し、「ガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標」を開示



北九州畜産・北九州水産工場 2工場に  
ガスコージェネレーション設備

発電する際に発生する排熱の一部を有効活用し  
蒸気生産時のエネルギー効率向上を図る  
→エネルギー使用量・コスト削減  
→年間約200トン-CO<sub>2</sub>削減見込み



### ■ 人権への取り組み

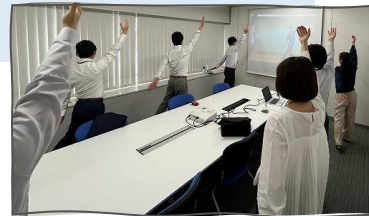
当社グループの事業運営にあたり、全てのステークホルダーの人権を尊重することが重要であり、人権に配慮した活動を推進

- ・ 人権方針の制定
- ・ 人権デューデリジェンスの実施
- ・ 役員向け勉強会の開催とハラスメント防止標語の公募

### ■ 人的資本への積極的投資

健康経営の推進:社員一人ひとりの心身の健康を向上させ、活力ある企業であり続けることを目標に掲げ積極的に推進

- ・ 健康経営戦略マップの作成
- ・ 健康経営アプリ「Well Go」の導入
- ・ 週1回(水曜日15時より) オンラインストレッチ開催
- ・ 健康経営優良法人、横浜健康経営認証2022クラスAAA取得



2023年4月より賃金上げ実施 非管理職+6.4%

社員一人一人の成長をサポートし、誰もが長期的に安心して働ける環境づくりを目指して、成長ドライバーである人材にも積極的に投資を継続!

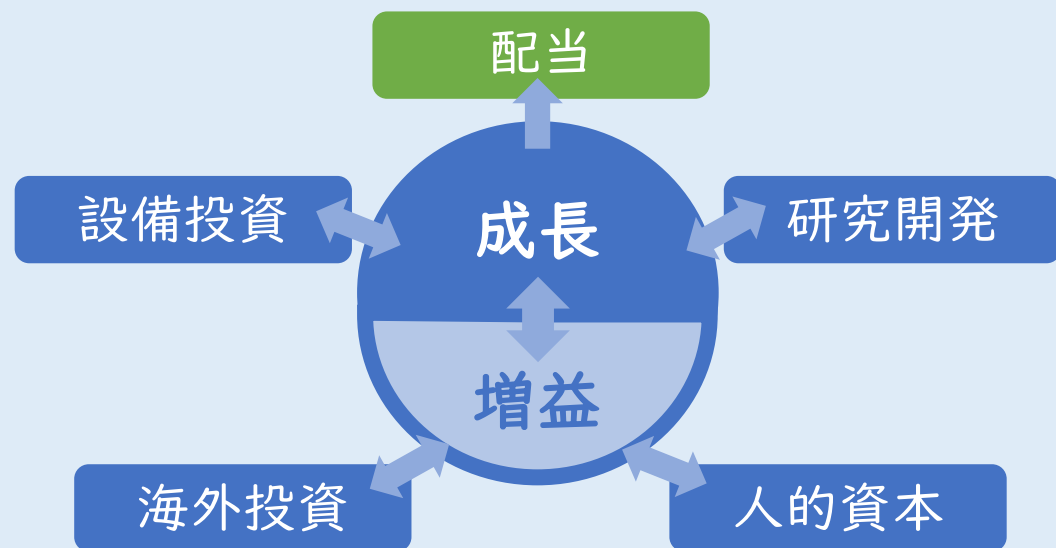
# 配当方針と成長投資について



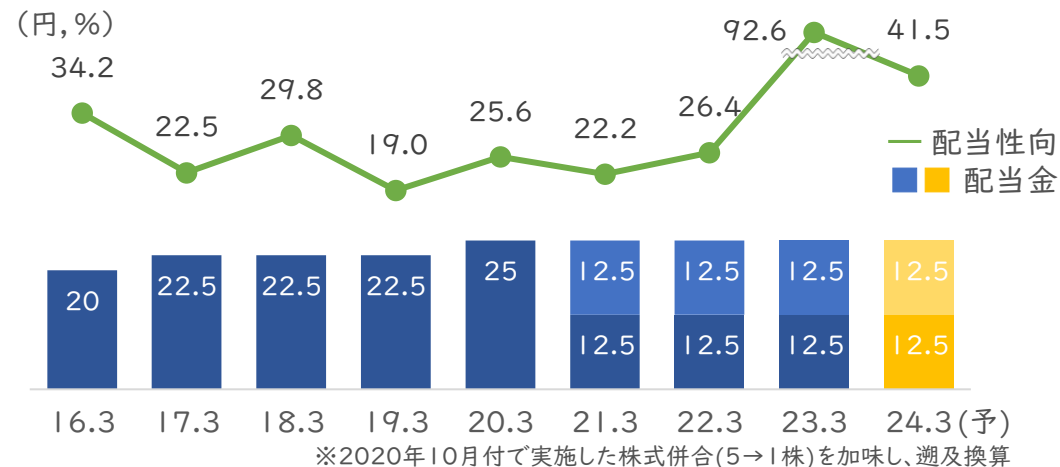
FEED ONE

## ■ 基本方針

安定配当を基本とし、連結配当性向25%以上を目標  
また、内部留保資金は、将来にわたり競争力を維持・成長  
させるための投資資金として有効に活用



## ■ 配当



## ■ 設備投資・海外投資

将来を見据えた積極的な老朽化対策や新工場建設  
海外における配合飼料の新供給拠点や新事業の検討

## ■ 研究開発

環境負荷低減を含む新たな課題克服  
物流2024年問題対応や業界の技術革新に繋がるDX活用

## ■ 人的資本

働き方改革・健康経営の推進他、  
キャリア教育体制や人事評価制度等タレントマネジメントによる人材戦略

# 企業価値向上に向けた考え方



収益力強化とESG経営による企業価値向上スパイラルを構築

## ■ 収益力強化

- ・コストアップへの対応・重点課題克服  
→2023年度事業計画達成（回復軌道の定着化）  
→成長投資の拡大（成長分野への再配分）  
→経常利益の増大（最高益への再挑戦）

## ■ ESG経営の推進

- ・ガバナンス強化  
2022年6月社外取締役にて企業経営者を選出、  
2023年6月社外取締役5名、社内取締役4名体制に
- ・新基幹システム2024年1月稼働予定  
拡張性と柔軟性とタイムリーな情報提供力で事業運営を支える

企業価値向上、株価・PBRの上昇を実現させる

⇒第4次中期経営計画（今期策定予定）







おいしさのみなもと

**FEED ONE**

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、

その情報の正確性を保証するものではありません。

また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛  
([ir@feed-one.co.jp](mailto:ir@feed-one.co.jp))にご連絡ください。